



共生社会システム学会ニュースレター The Association for Kyosei Studies News letter

2023年9月7日発行 第32号

目次

1. 2023年大会(宇都宮大学)の開催について.....	1
2. 2022年度第3回, 第4回運営委員会議事概要の報告.....	3
3. 2022年度第3回大会実行委員会議事概要の報告.....	4
4. 『共生社会システム研究』編集委員会からのおしらせ.....	5
5. 学会内研究会について.....	5
6. 運営委員会事務局だより.....	5
7. 会費納入のお願い.....	6
※ 宇都宮大会個別報告・研究会ワークショップ一覽	

1. 2023年度大会(宇都宮大学)の開催について(第3報)

2023年度大会(宇都宮大学)を, 以下の要領で対面にて開催いたします。

- ・日程: 2023年9月16日(土曜)～17日(日曜)
- ・会場: 宇都宮大学農学部(峰キャンパス)
- ・プログラム
9月16日(土曜) 13:00～ 総会
14:00～ 大会シンポジウム
18:30～ 懇親会
9月17日(日曜) 9:30～ 一般報告(詳細は最後のページに掲載)
13:00～ 学会内研究会ワークショップ

○参加費: 正会員 2,000円, 学生会員 1,000円, 非会員 2,500円, 学生非会員 1,500円

※非会員の方々は, シンポジウムのみであれば無料で参加できます。

○懇親会費: 一般(正会員ほか) 4,000円, 学生 2,000円

参加される方は, 学会ウェブサイトの下記大会ページに登録フォームがありますので, ご記入・送信をお願いいたします。(※共同発表の方も一人ずつ登録をお願いします。)

<https://www.kyosei-gakkai.jp/2023conference>

ウェブ上での参加登録は, 9月13日(水曜)いっぱい締め切りとします。それ以降は, 当日会場で手続きをしてください。いずれにしても, 参加費の支払いは当日会場にてお願いします。

大会は対面で開催しますが、各種資料は大会ページより入手していただきます。大会の一週間前をめどに、ダウンロードサイトのパスワードを、ご登録いただいたメールアドレス宛にお送りします。

会場では、ほとんどの教室で、WiFiの利用が可能です (利用できないとお伝えしてきましたが、訂正いたします)。当日もダウンロードできますが、事前に資料を見ていただくことで議論が深まると思われまます。

会場では、週末のため学内で開いているのはコンビニのみで、お食事の確保が難しいです。各自キャンパス外で調達していただきますようお願いいたします。16日のシンポジウム会場近くには自販機があります。また二日目、17日の9:30~13:00頃まで、会場1階にお茶・コーヒーのセルフサービスのコーナーを設けますのでどうかご利用ください。

新型コロナウイルス感染症については、以下の対策を講じます。

- ・会場の換気に気をつけて開催いたします。
- ・大会受付にマスクを準備いたします。(着用については個人の判断にお任せします。)
- ・消毒液は、16日のシンポジウム会場入口、17日の2号館(農経棟)入口に準備いたします。

大会シンポジウム

ポスト福祉国家とサードセクターを考える ―社会的事業体の新たな可能性―

座長：柏雅之（早稲田大学），古沢広祐（國學院大學客員教授）

第1報告

「ポスト・ケインズ型福祉国家におけるサードセクターの存在意義」

報告者：向井清史（名古屋市立大学名誉教授）

コメンテーター：古沢広祐（國學院大學客員教授）

第2報告

「日本の農山村再生と社会的企業」

報告者：呉鷲（愛国学園大学）

コメンテーター：矢口芳生（福知山公立大学名誉教授）

第3報告

「脱炭素・環境共生社会とサードセクター ―スウェーデン・スコネ州と栃木県の事例比較から」

報告者：高橋若菜（宇都宮大学）

コメンテーター：林田朋幸（帝京大学）

※第31号で高橋先生のお名前に誤記がありましたこととお詫びします。

企画主旨

本学会では2021年から2年間、「ポスト新自由主義のビジョン」をテーマの基軸としてシンポジウムを開催し、資本主義の問い直しをしてきた。2022年度は変質をとげる資本主義の内実を探ることを試みた。こうした流れを受け、本年度はポスト福祉国家のあり方をその重要な担い手であるサードセクターの視座から考えていく。

20世紀後半、混合経済体制としてのケインズの福祉国家が多くの西側諸国に一定の豊かさや安定をもたらした。しかし1970年代後半以降、総需要管理の失敗と財政赤字、政府主導の画一・定型的なサービス供給の効果の減退によって福祉国家の限界が露わとなった。そして到来したのが新自由主義であった。

他方、戦後、福祉国家体制に道を譲ったかにみえた19世紀以来の社会的経済、連帯経済とよばれる「社会による経済コントロール」をめざす運動が、新自由主義のオルタナティブとして再び着目されてきた。その重要な担い手がサードセクターとよばれる非営利・協

同組織であった。これらの組織は個別の課題対応のために設立され、高いノウハウ・専門性を持ち複雑な問題に柔軟に対応できるものが少なくない。こうした各種多様ないわば専門店が地域をベースに連携し、その他の関連アクターをも巻き込んで包括的な地域コミュニティを形成するなかで「共」的な領域を再構築する可能性も議論されてきた。

こうしたサードセクターに1990年代以降に変化が生じてきた。公益を追求してきた非営利組織と共益を追求してきた協同組合の両者が事業NPOや社会的協同組合という姿への変化をとおして、公益追求と事業性の高度化という領域に収斂していく動きである。社会的企業の勃興である。社会的企業についてはヨーロッパでは新公共ガバナンス（NPG）のもとで政府との連携や法的認証が進んでいるが、メリットとデメリットの双方において議論すべきことは多い。シンポジウムではこうした動向も視野に入れながら議論するとともに、日本での意義と課題を考えていく。

第1報告では、サードセクターの存在意義とは社会課題の自律的解決を可能とする社会領域を構築することであるとしたうえで、それが政府・政治システムや市場システムに対する社会領域からの牽制力となるための論理とは何かを議論する。そこでは規範論的再検討とともに、「社会関係財」という独自の概念を提起し、サードセクターが競争力をもちえる領域について考えていく。

第2報告では、日本の農山村型社会的企業としての集落営農の意義を考えていく。集落営農は、コミュニティの農地を守り抜くという環境・経済領域での明確な社会的ミッションと経営持続性追求との両立のみならず、全構成員の生活までも含めた相互関係の強化をとおして「共」領域の回復まで展望しうる。こうした環境・経済・社会の諸領域をカバーしうる集落営農の意義と課題を議論する。

第3報告では、世界各国に先駆けて脱炭素社会を構築しようとしているスウェーデンの地域システムを考えるとともに、本大会開催の地である宇都宮市や栃木県などの地域的な課題について議論する。北欧はサードセクターのサービス供給を政府が吸収してきたとの議論もあるが（宮本太郎）、本報告ではスウェーデンのサードセクターと政府を含む多様な主体との連携に着目して考えていく。

個別報告・研究会ワークショップ

スケジュールと会場は、当ニュースレターの最後に掲載してあります。

発表をされる方は、9月9日（土）までに当日使用するファイルを提出してください。発表用スライドはPower PointあるいはPDFファイルをお願いします。それ以外にも参加者に読んでいただく資料があれば、あわせて送ってください。すべて事前にウェブ上で参加者に公開した上、個別報告はご提出いただいたファイルをあらかじめ会場のPCにコピーした状態で実施します。

提出先：大会実行委員（個別報告・会員企画ワークショップ担当）

武谷嘉之 taketani☆nara-su.ac.jp（☆を@に変更）

2. 2022年度第3回、第4回運営委員会 議事概要の報告

第3回、および第4回運営委員会が下記の日程で開催されました。

第3回運営委員会

日時：2023年6月10日(土曜日) 17:00～18:40

場所：オンライン

出席者(敬称略)：朝岡，柏，オプヒュルス鹿島，岡野，武谷，安藤，稲村

欠席者(敬称略)：桑原，植木

報告事項：

- 1) 入退会について岡野運営委員長から報告があった。
- 2) 柏副会長より，第2回大会実行委員会(3月21日 19:00～)およびその後の経緯の報告があった。
- 3) 編集委員会報告として，安藤編集委員長から学会誌第17巻の構成について説明があった。

審議事項：

- 1) 2024年度大会について，首都圏で開催することが提案された。開催校について会長及び運営委員長で検討し，次回運営委員会で審議することとなった。
- 2) 学会誌のJ-STAGEへの対応について稲村委員より報告があり，投稿論文の掲載を軸に準備を進めることとなった。第17巻については，全執筆者に対してJ-STAGE掲載の可否について許諾をとることになった。
- 3) 次回，第4回運営委員会は9月2日(土曜)17:00-19:00開催とする。

第4回運営委員会

日時：2023年9月2日(土曜日) 17:30～18:45

場所：オンライン

出席者(敬称略)：朝岡，植木，オプヒュルス鹿島，柏，岡野，安藤，稲村，桑原

欠席者(敬称略)：武谷

報告事項：

学会の事務委託契約書について，入退会，編集委員会，および当日先立って行われた大会実行委員会について報告があった。

審議事項：

大会時に開催する理事会議案，総会議案の確認，2024年度大会，学会誌のJ-Stage対応への準備，ニュースレター第32号について審議を行った。

3. 2022年度第3回大会実行委員会 議事概要の報告

第3回大会実行委員会が下記の日程で開催されました。

日時：2023年9月2日(土曜日) 15:30～17:10

場所：オンライン

出席者(敬称略)：柏，秋山，岡野，林田，稲村

欠席者(敬称略)：朝岡，呉，古沢，武谷

審議事項：

宇都宮大会について，会場の準備・受付体制・会場配置・スケジュール・PCの準備等，全

体にわたって検討・確認を行った。

※ニューズレター第31号に記載した第2回大会実行委員会の時間帯が間違っておりました。申し訳ありません。正しくは、19:00~20:10になります。

4. 『共生社会システム研究』編集委員会からのお知らせ

『共生社会システム研究』第18巻への投稿原稿を募集します。ふるってご投稿下さい。締切日は2023年11月1日（水）です。締切日を過ぎての投稿については、次巻（第19巻）掲載の原稿として取り扱いますので、あらかじめご承知おきください。また、所定の字数を超過している原稿は受け付けず、修正を求めます。締切日直前の投稿だと修正が間に合わず、次巻（第19巻）掲載の原稿となりますのでご注意ください。

投稿にあたっては、指定のフォーマットを使って原稿を作成していただきます。このことを含め、当学会ウェブサイトに掲載された投稿規定、執筆要領をよく読んで原稿を作成し、投稿してください。ご投稿の際には必ずご確認くださいませようお願い申し上げます。

原稿の送り先：

東京大学大学院農学生命科学研究科

『共生社会システム研究』編集委員長 安藤光義

E-mail: ando☆g.ecc.u-tokyo.ac.jp（☆を@に変更）

5. 学会内研究会について

会員の日常的な研究・交流活動を支援する目的で、会員が運営している研究会を、「共生社会システム学会内研究会」として承認・支援しています。詳細は学会ウェブサイトの「研究会」のページをご覧ください。

6. 運営委員会事務局だより

宇都宮大学での大会は、2019年度の福知山公立大学以来の対面での開催となります。懇親会も楽しみです。宇都宮大学で前回2010年に開催した際には一日で終えていましたが、今回は二日間としました。会員が首都圏だけでなく全国に広がったことを踏まえてのものです。

一方、コロナ禍によるオンラインでの活動の中で、オンラインのメリットも見えてきました。運営委員会等は基本的にオンラインですし、大会においても資料はウェブ上で配布するというように、オンライン／オフラインのメリハリをつけることを試みています。遠方からの参加が容易なオンラインのイベントも今後実施していきたいものです。学会誌についても、冊子の形態は当面維持する予定ですが、J-STAGEへの掲載をめざして検討を進めています。

宇都宮大会では、二日目の午後に学会内研究会のワークショップを開催しますのでどうかご参加ください。交流と新しい発見のある、加入してよかったと思える学会であり続けたいと思っております。引き続きよろしく願いいたします。

※事務局では会員の皆様からのニュースレター原稿を募集しています。会員の活動紹介や、会員が執筆・翻訳した著書・論文の紹介等も歓迎します。詳細は運営委員長の岡野までお問い合わせください。E-mail: i-okano☆cc.tuat.ac.jp (☆を@に変更)

7. 会費納入のお願い

2023年度会費の納入をお願いいたします。会費は、一般会員 6,000 円、学生会員 3,000 円、賛助会員 20,000 円となっております。2022年度以前の会費を未納の方は、未納分も含めて納入をお願いいたします。

また、住所、所属先、メールアドレスに変更がある場合は、連絡をお願いいたします。

共生社会システム学会ニュースレター 第32号 2023年9月7日発行 編集・発行 共生社会システム学会運営委員会事務局 連絡先 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町3-3-3 木下ビル4F 農林統計出版株式会社 内(担当:稲村) TEL 03-3511-0058 / FAX 03-3511-0059 E-mail: inamura☆angel.ocn.ne.jp (☆を@に変更) 郵便振替 00130-6-372850 (加入者名)共生社会システム学会
--

9月17日(日曜)午前：個別報告

会場A			会場B				
9:30~10:00	A1	増本 佐千子	障害者と「共に学び、共に生きる」実践的研究～東京都多摩地域における公民館事業からみた共生社会への試み～	B1	謝 京学	都市生活環境評価の体系的なレビュー	座長：中川 光弘 (茨城大学 / 東京日野国際学院)
10:00~10:30	A2	加藤木 ひとみ	科学館の展示場における職員と来館者との会話の実態と来館者への影響 一來館者を対象としたアンケート調査から	B2	白鳥 武	地球共生デザインの新実践例：異文化共生空間デザインへの挑戦 一共生学モデルに照らした地球共生デザイン手法のモデル化への本実践からの考察と共に一	
10:30~11:00	A3	岡野 一郎	大学における外国語教育と英語支配 一教養の言語から科学の言語へ一	B3	高橋 宏之	動物園という場からとらえる「人と動物の共生」一『世界動物園水族館保全教育戦略』を事例として一	座長：植木 美希 (日本獣医生命科学大学)
11:00~11:30	A4	栗原 智美	公教育の限界と共生社会を支える役割を探る 一青少年における野外炊事活動を軸として一	B4	立松 風太 森元 真理	大学生は放牧動物に対してどのようなイメージを持っているのか?	
11:30~12:00	A5	石川 伸次	学校給食費の無償化について 一給食費の無償化に踏み切る自治体に着目して一	B5	関 陽子	「殺生」の人間学的意味とは 一有害鳥獣捕獲における道徳的問い一	
12:00~12:30							

会場C			会場D				
9:30~10:00	C1	大和田 興	産業化社会における地域農業再生の検討 一福島県の農環境と地域社会の共生のための試論一	D1	上柿 崇英	「思念体」の研究 一A I、メタバース、アンドロイドがもたらすポストヒューマン時代の新たな世界観一	座長：泉 貴嗣 (小樽商科大学)
10:00~10:30	C2	小林 賢治 大和田 興	茨城県県央地域の干し芋経営の現状と課題 一テロワール概念を用いたケーススタディによる試論一	D2	笠原 恵美	若者を主体とした環境運動の理論的課題とその検討 一エコフェミニズムの立場から一	
10:30~11:00	C3	堀口 健治	強調すべきは営農型太陽光発電の多面的意義 一2分割の農地不適切利用を排除する規制強化は大事だが一	D3	東方 沙由理	健康意識から自然への配慮は可能となるか 一からだの健康と自然の受容に関する意識調査から一	座長：桑原 考史 (日本獣医生命科学大学)
11:00~11:30	C4	シュレーガ ベンジャミン 神代 英昭	日本の和牛ブランドに対する新型コロナウイルス感染拡大の影響 一和牛ブランド管理団体を対象としたアンケート調査結果より一	D4	村井 伸二	高齢社会における環境保護・保全運動の新たな可能性に関する考察 一自然観察会の実態調査から得られる成果と課題に着目して一	
11:30~12:00	C5	孔 擎暉 轟 海松 謝 京学	RCEP 協定が日本の農産物輸出に及ぼす影響：修正重力モデルに基づく	D5	佐々木 美貴	湿地保全とワイズユースを活かした市町村の特徴 一ラムサール条約自治体認証制度から見た共生社会の可能性一	
12:00~12:30	C6	李 皓瑀 内田 晋	中国農民栄養摂取量の推定				

9月17日(日曜)午後：学会内研究会ワークショップ

会場A：「人と動物の共生」研究会			会場C：共生社会研究会			
13:00~15:00	WS1	高橋 宏之	動物園と動物園法・博物館法を巡って	WS2	武谷 嘉之	共生社会の形成に資する地域振興・地域コミュニティ再生のあり方

会場A	農学部2号館 (農業経済棟1階 2C21教室)
会場B	農学部2号館 (農業経済棟1階 多目的スペース)
会場C	農学部2号館 (農業経済棟4階 農経大演習室)
会場D	農学部2号階 (農業経済棟1階 高度情報処理室)